俳風柳多留 十六編

へ9
1147
15

特 9
門 へ
號 1147
卷 15

〈亥年山之手組〉

三千五百五十咯 中坂 飯田町錦

三千百咯 山の手ノ丁 牛込蓬来

二百咯 めや丁 赤坂紅葉

六千余咯 九ん寸町 四谷鳳凰

千余咯 若葉町 青山真砂

〈同芝組〉

千二百五十咯 永ざい 麻布柳水

千百六十咯 二本ゑの木 芝水仙

三百咯 やぐんぢり 兩國旭

千七拾咯 三河丁 神田杜若

貳百余咯 ちゑりくま 淺草若葉

〈同本江戸谷組〉

二千九百拾咯 素木丁 本郷白木

貳百咯 片丁 九山風雪

千五百咯 四丁め 本郷白月

千七百咯 赤坂山丁 山下櫻木

貳百咯 大はし 千住登

貳百咯 廣小路 下谷伊豆張

九の門口にかけ大へとゝ一うゝゝが
ぐんうゝ位ひ姿片手にて峰
おはそゝ鼻まで水平でふく沢れる
拾ふかけ目で見てゝ鼻ぐかいて居る
沢ゝ中うへぶぜのゝ乳とゝいてオブを
ぐんゝゝゝ位ひ左はなをく
いよゝのぐん面ふかゝるがゝる
ゝげ毛が細引ゝ出ゝ馬
みのえき竟ゝて居ゝ

紙ゝいゝゝんぶのどゝぐ大きゝぐ
かゝてゝゝゝゝと姿ゝ
宮下ゝ二ゝゝゝぼいゝぐば
ゝいゝ紙ゝゝゝゝぶ出ゝ
石ゝゝ大ゝ中ゝぐゝゝ
ゝれ馬片ゝゝゝの代ゝて行
姿のゝゝかゝゝ姿ゝ人ゝゝ
見ゝ出ゝ代ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ男ゝゝゝゝ

日の永さ
るのはやうす上下で小さ
こゝもんの子てもらら祝ひとれ
すでこさの中と世界のうでもらり
二十九のうれらうとうんと笑
花さかくびがのぢるもとも
花り葉も形くりてうは
お代わりのうの笑うの
うれうもいもうく人う出る

めのうは大うか門うはてかる
本月の松百とおすすきう
りうこはりうのもとおしいり
大風がみんはうこんふいはり
うきぐるうとさけてえひ上てる
月のくとうらくくおひる
うこうるくるすの出るうる
ら紙うこうくらくひら
神示堂之石しうぐとうも

[illegible]
[illegible]
[illegible]

秋葉原 市ふも 経のかちとち
口はうぐ ちをとおでまち本線とを
ちや小屋やと ちのこまんく
ちんぐいてもちんてとく
ちちと 辻書くも絵とち小ちは
うちんふもはく をちてちひとを
ちちんと神山ぢんを見ちと
はぐく 先をひちくばちを
ちいうちちんも因ふちを

ちちちを訳年ちとちんの
はがかやちんでちをちまの因
訳神いちく山人ふく世やはい
はをちはがるく小系訳年のはを
因所先ふ宝ちかちなてある
ちちのちちのちいち大ちを ちく
芝居谷かちく見ちちんでち
訳ちちちちちちちちおやちんちく
初うつは 世房ちを ちを

山へ入て
大きなる木の
小川へ出る
[illegible]
やきしゐ
[illegible]
金元山のほう
[illegible]
[illegible]

[illegible]
傘くらのひとり
西の宮でとつ
[illegible]れと
大年の
[illegible]
[illegible]
四郎
[illegible]
[illegible]

生姜をばんくばとみぢんにく
ゆいてえもヒゆ一番に石ぶぐ
大一えおする〳〵のばらう
行くぢんこと〳〵とれこと〳〵とものに
よの国ぢまるかのもかるかヒス く
おぢりいかるもく〳〵るとるいこぶ
いるのものもまるのでいかりせこかば
こらもしのおんこうでらるらんぼう
まいこのやうにかるかるつぢき

源左衛門はすの組のばとてやられ
ぶ〳〵ぶこんこんふぶ〳〵てぞとわら
わる井沢さいぢ〳〵ふるこかし〳〵せま
ぶかりのばはりるやぢんおて居る
板ないはぶでふるヒゆにふく
国十とこもく〳〵ひて礼をこけ
こぢりぢいはるこやヒゆ〳〵をりてひ
せん初やこいはうすこちふりかあるぢ
こぢや 書 ょ十 ぢんはいらく

[illegible]
[illegible]
[illegible]

りらやかくしまらかあ四く
ぶくとさのふのてぶふとてけ
うしろうあまて四おらんぶ三
とそ仏ぐさんひ　丈夫か男ある
四りけとんけてのもてれいんや
あぐとふげぐ弟ぐんぶうく
四ひとけて　ゆ　こうひ
美仏の中　めぐ　ぶいい　みむん
ひまさんぐさんて　尾とうり

さうその大軍三かのうけ喰とりば
大うとうけうとうおうりうひ半
大一三人のふんぐ　式三人
中鉢と法華を美してをうさ　市ば
四人と　こい物て　ぐうぐ四
ぶっさんぐ　海やとうみびと事
ものりふいやよ　夢でくく
ぜんるもまふおうれ　仏影物り
ちうとをぐるや　四ハ姫ともしぐり

いなごをとりに出かけて行き合せた一人の男
やくざものらしい男の竟神ぶりを
長右の百こぶし不二の根へとばし
ぶら下げて二ッ巻き通りくい屋
ぶりくの百姓衆はとてもかなわぬと
かけてしまったとさ　そこで
下男は田舎はくらしてもしかし
おかしなまるとそだ屋のそうとり
大工元やこの場のゴンもこれ以上
[illegible]町へ行かずとまとまった
[illegible]ばそれ
[illegible]のぼりも又[illegible]
[illegible]のうち
[illegible]石ばかりとなる
村[illegible]と笑ふ
[illegible]の忘れる
[illegible]と来みげる
[illegible]ぐち

[illegible]社と申して至
年とへし糸のこぶんぐるまのうり
ゆきしくもうんぶ[illegible]と村仲人
此三人すいるし給とまうせる
ふすまのうしろとくられ馬
市がとすらうば殘りいと車口乙
うんうんていひりさし書が長
おのしくしくれいせぬくこまがき母
いくらのもりと乙をてくさく

おてぐさのうりて入ひおんぶさん
いらさんおみていふ前く給乙
用がさらくうるや大坂しおて居る
てんくさんの糸のるさんちやうば乙
成くちのくしの義ふ河ふ雷の年
やうくものとやらいぬくくアいかくく
ちのの法ゆく大屋くくかの年
みくがくさやすくかみいのたかぬぐん
三度目村一ぐんの書てけり

一のとこゝろにふかのものがうかゝり
てゐるとゝろやゝ遠く多く
ゝ町をおざるゝうて細石ひ
金屋川牛 おゝ さ 出まれ ゝん
血ゝら流れて人が多てはめ
下戸の前二つ かゝて 出ふり
新ぞりがゝ の 赤いゝつゝ ゝれ
石皮大けんぐ おぐ ゝうんる
ゝひぐ おゝ 出 ゝと ゝ

ちんぐんゝび ゝひゝと 流ゝる
ゝれゝゝのゝてゝかづゝて
おゝ 海 ゝ 流やとせめ流ぶし
ゝ ゝ ゝ 山とぐんし 合
や、流ゝも田流ゝんゝゝて出る
中 ゝ ゝ の 出ゝ
ゝゝ ゝ ゝゝ ゝ流ゝ
見ゝゝ ゝ 新流ぐけてゝゝふく
小松ぐの ゝ

三石置蓋とゝもに面しろい
光かしかぶかんごんつくるひも
ゝをゝらく　如二之日ゝと乙
ゝんせつをゝぶしけてきさうとぶ
ぶゝを見ゝ　ひかしゝふぶゝざさ
ゝゝかしの人神ゝる〳〵
おやまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝかのとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
新日ゝ　ゝゝと見ゝゝゝゝゝゝゝ

蓋ゝゝふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

のり合ひ　おぼれもがらかやで一丁
ちらしでも　ちらさひ　ほうく
ぬくとしたが　あづまの　四海うち
大坂が出ぬ　わらしの　ちらされる和
ぬつかちらこんぶ　ぶしふく　ひ
ゆ　ふ　ちんこ　流とうり　色し
出かのさんぞ　ちくさんしふひ
かちこ　ちうけて　ひくがのりとを
ちうまで　ぬいつ　ちれとおし

ちんもりひ　ゆやし　一日　戸をさせ
ちんぞ　とちさうとして　ぬふ　色
出やの　目が　ちつ　ぬぐ　天かれ　ちふ　合
小ちさ　ぬ　ちり　小糸のかりやく
石やらちさ　ちり　絵ぶ　ぬ　ちり
ぼちさら　でちと　ちいちのとしぼひ　ちる
ちと　二人　りて　ちゆやく　ちんぶ　半
ち　ちく　ちちぐ　ちのちぶ　目ぢる　く
おちぶれたちの　大ぢ　ちん　大ちや　ちん

ゆく世事おもひやられてひ
いろは花ゆめみしやかをるてる
はゆめ〳〵見て上野をおもひてゆく
ものいもと小さく
勇伊のうりへうるをんなの
かへりてもはは出たかをひ
てをはしい美るとをさ岡屋ら
ちろへさをいるをんばうさをらく
こうをんどもをてたをの城とをし

ゆくをの戸板へ日ひてをくらをう
をめんをばさしかとおり大くゼつ
屋のやうかはををえをしのをり
ひりををかををめやををばひばり
茂ゆ所をのををはをやをうをては
半子のをら花をこををん音がせば
はるをかを書をはをるをの町
やをうをふばでをけをうをふをん
茂へをも入をられををを鞘ゆう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はるひでさうしふ　ぎふ　姫　のて
ちゑ　入　はるちゑ　ちゑ　ゆく
おかくく　ゆくしら　ちゑ　たさ　ゆく
ゆく　ゆはい　ゆく　人　とする　ゑこ　ゆ
ゆく　ゆ　面　ゆ　唐　ゆ　二　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　見　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

あつけやうて　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

ちんもりに入るうそ出場を待つ
傘の礼をしゝ
石でもとばかりの川へかんきよする
こやもなくばかりすて新潟おいでさる
けうらかけるやうに武人居る
やうしもえらつうまさ
紙くずもまをかもいたもとい
仲居い西八条へ入るもり
後年毎月の出せいりの御
うちで行くうしかた
中居へ多く郷邨之次うつる
口口よりかぶんりかもまち
すいぶんいくでかるの美やへみをを
やはりのとうくそりのらんがき
ソわけでいるかしらんの沙ばとき
後年　之時　元年まるいる
やさでろもはおるの　位をしく
おりろ武方かるるものがもし

一ト寸ばかりもあさく海をわたる
里のもくもくとゆきもまじり せんぐ やさ
大きなるうんぱんぶねにのせられ
えぼしもくもくまで 船頭の
じぶのうちのかぶとちらくく浪にくり
きしぐやはぶるまぬさづちらま
さばとおーふうんくうでへはいそ
ぶつきやこいうんさをくの湯へとり
やうてえやうまきとうがいる

大かんの一声 ちちのおと拾くかげ
おめちゃ 今ぶの 姓て 之 人が
ひーとりひぜくもんぶ引っぱる
二つのもるー 浮きまるは野しる
乳ものの 近へうら 拾引て ある
まいかはちてり海まる方の 西
びるの西のはのさくもるかるかる
ちんでのものひぜんぐ京さぐ
はいべとすばうくまるが 吸はる

とりて金ゝつゝらふぶごゝろんそしじ
紙ゝの筆かてていぶごとていぶごり
はゝ面ゝしゝまへゝもろふく
もゝなぐいとわぐぶゝ面ゝのさく金
ゝゝ切ゝゝおゝちそしや　ゝゝ
入ゝすゝの有ゝいてりゝゝ
町内ゝ人ゝハゝ
ゝゝゝ通ひを　赤
死ちと出ゝゝ

ゝゝの小べんゝゝゝゝ
ゝゝ出ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝのゝゝゝ目ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

くるいかるそい命カとい京ゝる事
ほん中が出るとらく天おしがはる
ゝゝゝゝるて〻かおうまはは石ゝ中
はゝゝの行じさゝほかこゝ好道
うゝくゝかゝで祝おか小野ゝ
さんや通ひゝゝ馬で来ら
五合り等のゝかゝゝんがゝゝ
ゝゝもゝゝゝあゝえで日がゝれる
新光のゝの行ゝゝ人形ゝ

はやうゝが行ゝく毎の毎ゝ
京義行ゝ通ゝ行じさゝれてはる
おゝのつぶゝもゝと行ゝく右は
如房をゝぶゝが中ゝ、おゝゝゝ
ゝ行ゝれゝさゝゝゝふゝてやゝさがり
ぢん行ゝゝいゝゝゝる血と行
ゝのゝゝゝ山回ゝゝてのゝぶの
就ゝ年ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝぶゝゝゝい如房とゝぶゝ

[illegible]
大波[illegible] 一百[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]のくすり紙くずや切こと
大二十日ばかりの代りにかけてたち
まちうり申さるのを毎年[illegible]
白ろくみなを紙も えきが見く
ほうがんひ世中の中ほそ人[illegible]
神仏ふかいかてらいちをたんてい
ひとりとの目でえらやうもん
三宮りはきくのをくみいる
は書りりんもいいがそひや

大きなびお町ちがひりの時
をおぶかるまえをはと根葉の始
わりものでもふ法えが二日さ
ちうくく姓 ア[illegible]とり こ[illegible]
ちう紙と ちうものの中でちさ
ゆうまのちり ひうかこの 若江り
古ほにいいんだか 時とりせとう
近ふうう ふうとはくはは 拍る
ちんでかぬまて なふと出ちう

[illegible]
紅葉のうつくしさ
なぐさむ八百屋の
ものうりの中かいまぜて
見れども後ろ姿
係員とうぐいすやうるる
うえの山はゆきのみとを
元山のうらうえんたるより
それをうつす無判の
[illegible]
[illegible]
ぜっかを走りまわる武十りん
かんぞんのオとるさいうとひ
ゆっこっ第えらっけで紙又ぶち
むらくやのもおてんもおて居る
泣きで氣ちゃて毋を離とを
るつで居て、ふ他のもちく
手いせいり世話ちんこんちまく
うをついくはらと雨の中をけ

いろやのかおをそなへする
すがたをかをりてたうまる
ちりさふ海ちか　石無を一つゝゝ
門ゝれゝ　遊人のかゝる中のしき
目とはるゝくゝてく紙と色い
おれが目と紙しかいこと色白く
ものせいもゝゝ多ゝとくゝまく
ゝゝ海をゝ化ゝゝの出るゝん破
出版ゝこのおゝゝ白ゝゝゝゝゝ

元人音めゝしかゝとゝ雪のゝりが多海
あゝ方と紙ゝしかてひすゝ　ゝうゝ走る
大一ゝ　下ゝ紙ゝ　ゝくゝうしかてゝうゝ走る
ざしかくゝゝゝゝゝが元のゝゝと紙走て出
色つゝゝハ四男ゝ　ものが活イゝゝ
紙海ゝりかゝ海ゝ峰ふ植ゝ
おゝ豪の　ゝさゝ　ゝゝゝ紙ゝゝ
海ゝゝゝゝゝ大稲ゝ紙ゝゝゝゝゝ
ゝしかゝゝ多流と紙走て紙ゝ出

奥州花まづ吟味出来ぬうちとせつき
塚の御ふさとうんさハ数多の
ぶぎきまして結構たる茶番ふ
やさおのおかりらがさんふまふさんん
ひんだいと用事中からさもるやうな料理
茶お酒さこうりで先ずこ坊ふまセ
ぎがうあり武士とうりさと毒せき
さて酒ふもうりちゆうさと以前さるた
ものさなつり酒之位之石ゆり

仲間ワれ川さんたまり　れ之人
大一えちうこ方し　茶屋で　ひ
めがこさハうり方かくていすぶう
ろいふて見ろうすぶう　酒ふ　時
ちやく馬ゆ　出ぶりうふおくの伯父ゆくいけうを
出ぶりうふおくく馬のかしとうひ
おうこゆどのうこぶんぶ居さぶう
うんぐうりつりで　乃ちぐうく
うんふゆ切ちとせきぶう　やうく

切なく、そのあいだ、合
ゐいぎくふぎやう、ものかなしかれば、
いものかなと、そらけふ、ぶらぶらなる
それのごとく、おもりるぐんとそやうく
さらに、ものもとも杖でかるとよとる
そんそうさが、面とぐんぐんぐんぐんぐ
そのつくりてい、おもそ、ゆくされる
切なく、ハいの時、かかく大ふこをり
ゆがとそんけちくふうやまをすりけうあ

そんつくとやひそんぐくふ毒とうる
ふるしきでまふ、小間そのや
かやで叫ぶ毒毎をよるひる
おそく毒と、大工ゆくぐ面ぶ、ゆうる
ふうや、蛾ハさんが、蛾の知るお家く
ロるひ乃ゑ、土々寺、ぐんぐんをよぶれ
ちんゐいくくんゐくひすめ、使く
毛おゆ内、大をく毒伝を、ぶつ、ゆれる
けぬ、ゐべくゆうたひ、馬ゆ、ぶる

十八丁ばかりこゝ俗ハにいでゝ
きうるかゝ日へ[illegible]と[illegible]今やうの下ゐ
下よのゆきそやくくそこ[illegible]
かさぬやゝ[illegible]ものゝ入りとひしそち
皮軍の[illegible]ちるそ 鈴森 野りり
かんかくづ 庵ゐぐ はゝいに仮元元こ
さゝ田のやぼ[illegible]ふとをりよ ひ
多礼とそ[illegible]ん[illegible]やす ゐそこの 夜
言ゝりハくへゆそものゞと 世ゐいる

妻門がやゝかゝ[illegible]やへんてもそ ば
差いがさゞ[illegible]ゐて居る
[illegible]ゝ[illegible]の 世房[illegible]ゝ氣く
旦邸とひゐぐ見ゝ[illegible]ばかやゝ
[illegible]とのかれ[illegible]ゝ妙やの[illegible]かゐ
[illegible]んじのその八[illegible]かゝ[illegible]
うんを馬ごゝ[illegible]ふ[illegible]ゐ 赤 老
娘[illegible]かゝりとゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝがあり
りゝやゝゞがゝ[illegible]りさゝりの夜 世

[illegible]の前をくさめと言ひて
奥さま〳〵はとうちはをふくさの
御引〳〵ふかはかりは数がなし
九花えの五すはいさやうの事
をせ馬ごのとうちまやもけどもく
母ばかりかいふ是のひくところ
ちり紙ばうのはしびか音がへと
よびまるるはうちとあぐとはるまい
おこしといてうすどんか品を見る

はは〳〵はいかいぷうはいぷうはいぷう
ちんと見せやまとはあとはて細
ふがあるうんふがたとかくて来ば
かくるををくはとくなる
はとめてもうはいらやうそくちつかつる
こうふ上来ふ庭しそつこはて
ふまやうこ一ヶ月完とはあはしめ
三井やのおちしくく大はまぶあぶる
ぶくふか記母を人就丁て居ち

[illegible]てる町の春
絵のようなる家をたてて一回見れば
世間とくらべ物のおもしろさ
えんのしたとかけ出した大三十日
そばへ出るとこの古屋のうらいと知れ
かんこんがひしと居てこれ出し
ここの話細をおとなしてかけ
下地の様子をうかがいながら
[illegible]

[illegible]のようなる
[illegible]ようなる山
[illegible]ばかりの山
[illegible]戸板へかけたる
[illegible]紅色をそめ
[illegible]ばかりとなりたるの
[illegible]ばかりなる
[illegible]の小さいうち
[illegible]妹をくはへ
[illegible]切ってせ芋を
[illegible]せ車でかくく

[illegible]

出陣しまして　関白殿

いねをして中をかけ　去ぬ

いつるかぶとをくくりたるとの

くくりの四つ　後書ぶんする

ぶんをかけハつるひおどしをハ

宮殿のえりしの　後の身

[illegible]

おはちゃうさま　車カ　車

[illegible]　花車角と　松枝

[illegible]

末の　松　山を　[illegible]

[illegible]の後　かくるゝ　[illegible]

[illegible]いでらの　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ぞ山へでもくりついてゆるぎていた
あ池にあまひぞ海がらすとうけ
松の四葉そぞろそろとうつもて
ゆくとぞ雪とくやうて小さく
その高え面のあくかうんがある
ゆくしまの庭をひすぐみ面白さ
ゆくぐいさいくわりふけ野
海んくらふてぶれの中ていがとふり
きいくとくしうふかぐる不二の麦

ぶくまらやかるゆく雪もるかぬる
かの首ふかあうしてのんで春
一ふりハくもかれまくしまのかり
そのふわをでそらそれのあいあく
神をしはちおしく合おやくぐ
ゆりまくのるを新ぞ急いてくる
麦そめハそっあやでりそうり
ゆくくと火完とを出手は麦く
かくれ松伝うんるゆ雪ぬと馬かぬ

妹のはしかるふそでうんかうと
おく茶屋茶屋はじりてぐらかも
すまれかしやれへーのぞくはのんから
ひろく〳〵瓦のかなしとゝぢりうめ
茶くはるとはしゑ　むとゝりもし
らくてんハ見ぬ一のそゞとうさ
ものすぢいものその如印と原
かきぬうとかやのくんまく新とるで
おいしらされもとおいあたりて四

ちうやれこぼが訳新ン　ちうと　と
ものはんぢてちうさやく〳〵あが出来
ちうじとくいちうぢうんぢんと　い
石さしきやちうさんを作りや
ひく時ふ小ちうし書ていちやふちり
ちうぎをまじく〳〵ちると姫こんさぢう
十四日　猫ヒしほど　ちうぎと　さセ
おちうく〳〵のちうかへおする　ふそう——さ
中やび〳〵合をちうぢんて　乗　ひけ

ゆく代とゝんてつつゝる　位居より
紳つゝも　ゆく　所生て　夜とゝゞ
かゝゝゞゼ　無ゝゝゝゝゞでひゝゝゝん
二十万石で　江山ゞゞ　くゝ　ゞ
ゆくゝゝいて　へゝを　ゆて　ゝゝゝゝゝ
山ゝゞの　紳ゝ　金　ゞゞが　あハゝ
トゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝゝゝゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝゝすゞ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

傘の　ゝ　江　四　ゞ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

人がうちとハたてつけさせぬく
ぜんぜんふくさせぬと母おやゝ長せて出る
ゆげとゆきかゝと 辻番 そうを く
おそろしくハイハおやぢが屁用く
神仏のぶんちゃの 彼 みてうまき
ちゃていりれざらしてひごいやい
かくしゝ引出しとゆき 母ちゃ 門をする
おくさの手ゑぶれでかうまちがして居る
さう沢の 上 ちゃうを見か 所 きちり

かうちゃぶのかつてしかうぶのしへのり
おくふーくするハちんぶごとかぶり芋
ゆびりめんゆくとちゃもおちちゃ
ろてさんかつ指南とくるる 母
母ゆちんぶくんぶ方ふのちゃく
姫の屋を歩きさものハ半右ふする
ぴいゝとあくしおかから前屋をく
犬ぶゝ毒と見せてさちんちゃを立
京のゆれさゆゆげとうちゆ用よび

松永がまいりぬくくとんぐ茶屋なり
とびあがりとをりけんと琴へ引ぐくく
大や行くが茶しとをきぐんとびわらる
いまぐおわせざるぐふくりい　まどを
ぬ魚ハ廣ん[illegible]ものをひか角茶屋
くるとを行多じのハ新りしくぬ
祝ひしぐしいうくものとふてく五毒
大一氣松茶の中へ行くりい
ぐぐくくるゆ大ぐんを喰て居る

くくくるのさをるのかと對ーッ少
じいくくかはっじとひてび大ふ角屋
見はどのんぐくく碑くをるへ入
ひとるのくいとをとをんて話と祝ひ
後のはっこくくんをきはぐくく
行ぶ行く中へ行世ぶ　さんぐい
いつくを町ト行くくくとぐあっくく
年へはってくるぐくやへかとやり
後をさいくくうえをもも茶かされる

おのゝ母の方あうしゝ五月十
ちんさゝして三ん年経て居と
ゝほがゝ詩ゆ云くゝ出たふくゝ
ゝいりと筆をけて中の丁
あゝんとやゝ初ぬるゝゝゝ
ゝごんてんとゝつゝかたし
ゝいと思ふ事ゝやつ
ゝとゝゝと思て引うづり
ゝもわはしゝるとゝてゝ

くゝんれくゝくゝと十五ゝ
何ゝゝゝゝ母ゝ計とゝひてゝ
大ゝはゝゝゝゝゝ定ゝゝと
ふゝんゝゝ行ゝゝぐゝゝとゝて居ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ姉ハゝけ
年神とゝゝかゝゝ居ハゝゝず
せゝゝゝゝ出ゝゝゝゝゝゝ
かゝゝの初ゝゝゝゝゝゝゝ
家ゝの母ゝのゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ男のゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

子正月角力句合

一日いらりが足い中すり　鳳凰連文福

紙と矣るけとくせ[illegible]　夕聽、下時雨

三分めいらんそ[illegible]　古月、柳印

[illegible]　同雪、若竹

[illegible]　[illegible]　古泉

[illegible]　櫻木、木綿

[illegible]　延江、

[illegible]　鳳凰、旦唐

[illegible]八日[illegible]合て[illegible]　名木、洗路
[illegible]大小[illegible]は[illegible]月　拂水、兩譚
[illegible]と[illegible]ぬ中の[illegible]日く　紅葉、嵐号
[illegible]は毒[illegible]と[illegible]ふ[illegible]る　鳳凰、五扇
[illegible]壹の上[illegible]んまと[illegible]く[illegible]　若菜、東宮
[illegible]の音[illegible]　古月笑、加
[illegible]小の[illegible]小松[illegible]る　櫻木、大拂
[illegible]ん[illegible]　仝　花口
[illegible]の[illegible]　錦、紀來

[illegible]で五[illegible]人　拂水　排拿
[illegible]人[illegible]　伊呂波　律長
[illegible]自[illegible]　櫻木　五扇
[illegible]の[illegible]　鳳凰　文福
[illegible]一[illegible]　拂水　兩譚
[illegible]八[illegible]　蓬來　一南
[illegible]　伊呂波　芦露
[illegible]　櫻木　木綿
[illegible]　伊呂波　和笛

[illegible] 古月 光明
男十七世 三十一 井殊一口
うぶいとの音信 撫木 仙節
みて日数 金[illegible] 若菜 清江
[illegible] 小河 [illegible] 朝日 律長
[illegible] 鳳凰 [illegible] 示
[illegible] 錦 紀来
[illegible] 柳水 風頭
[illegible] 蓬来 菅江

[illegible] 柳水 雨譚
[illegible] 杜若 九桜
[illegible] 撫木 律長
[illegible] 鳳凰 [illegible]
[illegible] 風雪 古泉
[illegible] 近江
[illegible] 鳳凰 文福
[illegible] 蓬来 泉河
[illegible] 伊呂波 洗路

そもせくはらん今人と沖と櫻木　律長
嗜摘とのゝ沈む勝負ゆるしかん　風雪　五蝶
杵一いる中村へ子うり池とう弟　錦　水府
花見れまへ子のるせんげしし　捌水　雨譚
りしちりと枝の方へと仲と別　古月　水巴
いるさはくときく雑折のこゝろ　捌水　雨譚
思猫のこゝんおもさざかのうび見　櫻木　文古
見やさかもじさの塩そふ作り合　伊最　智留
村あ一の向ぶんぶいやぶ〜び　櫻木　律長

よのゝ〜ゆやハぢん寄もたゞ　捌水　風頭
同おかゝらおくもやまとかゆと喰　若葉　東里
死ぶ法亡郎と主てさうい論　鳳凰　五示
よ一のゆむ一むの咲くにけ　今　五扇
くやけ小屋ぶ月ゆの咲ゆげ　柳水　雨譚
面炭もかゝ子まる塩まく　櫻木　洗路
子出をくゝで夏その上とうい　杜若　九桃
世房ハ古いている　伊笑　鳳凰
とゝいかもうゆの月のハぢぶ〜と　捌水　雨譚

古来稀　ちう新政のひゆんく
上方ハとかり江戸でハちぎりく
梅てうぐ浪雲の春一巻戸く
琴三味せんとうめうと毛うせへる
さんの神を礼うせ村の娘
他ハ没家うちのづこちうぬとあ尺
せんそじ没の古日ハかてうりく
うちうちの切て入レうり浪
すくうくの出せちがいと弁絶く
夏と高山ふてうく　娘ひ
今月くとくいと帝ハ来上り
食ちをいとまんちうあさと

催主　山下

仝、　仝
鳳凰　五霍
仝　眠猪
風雪　古泉
鳳凰　水砥
柳水　風頭
若菜　力夕
撥木　洗路
伊呂波　琴車
鳳凰　水砥
伊呂波　琴甲
名木　浅裏
星運　秀
薩堂